

はじめて

「ほんの少しの勇気が、あなたの人生を変える」

この言葉は、15歳のわたしが、わたしに贈った言葉です。当時、わたしはひきこもりから外に出ようとしていました。1冊の本との出逢いが、わたしの背中を押したのです。未来が見えなくて、毎日が不安で、膝を抱えて過ごす日々、「このまま人生を終わりにしよう」と考えていました。だけど、「もう一度、自分にチャンスを与えよう」って、その本がわたしに言ったのです。ただ、新たな1歩を踏み出すには、「ほんの少し勇気」がいります。でも、その勇気があなたの人生を大きく変えるのです。

わたしの人生にはさまざまな出来事がありました。人生とは出来事の連続です。そして、そこには必ず人との出逢いがあります。出来事も出逢いも、あなたに必要なことから起きてくるのです。中には、苦しむことや悲しいこともあるかもしれない。でも、それも必要なことだから起きているのです。素直じゃなかったわたしは、その出来事や出逢いを否定的に捉えていました。だから、自分はいつもひとりぼっちだと思っていました。わたしをわかってくれる人などいないって、意地を張っていた。人と違うところが恐くて、人と違うことが不安で仕方がなかった。できることなら、周りの子たちと同じように生きられることに強く憧れていました。なのに、そう願えば願うほど、わたしの人生はどんどんはみ出して

いったのです。

15歳のわたしは言いました。

「いつか自分と同じように悩む子どもたちの、力になれる大人になる」と。

すべての出来事に意味のないことなんてありません。人よりも遠回りで不器用なわたしの人生も、振り返ってみたら、意味のないことなんて一つもなかった。どうしてわたしばかり？　と思うこともたくさんありました。なんで？　どうして？　また？　こんな疑問と友達かのように一緒に生きてきました。だけど、それにはすべて意味があったのです。

あなたに届けたい。「あなたは生きているだけで価値がある」ということを。騙されたと思って読んでください。きっと、あなたにも重なる部分があります。この本では、LGBTQ当事者であり、元不登校・ひきこもり経験者であり、高校中退者であり、家出経験者であり、福祉バカである、そんなわたしの人生経験を通じたメッセージを凝縮しています。

もしも今、そこに居場所をみいだせずにいるのなら、ここに居場所があります。もしも今、そこに安ら

ぎがないのなら、ここに安らぎがあります。もしも今、そこに幸せを感じることができないのなら、ここに幸せが広がっています。もしも今、「わたしはひとりぼっち」って思っているのなら、ここに「わたし」がいます。

誰のことも一人にしないよ。少しだけ、わたしの声に耳を傾けてくれませんか。

この本を手にとったあなたへ。

まずは「ありがとう」を伝えます。ご縁に感謝いたします。